



2023年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社グリーンズ 上場取引所 東 名
 コード番号 6547 URL <https://www.kk-greens.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村木 雄哉
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 伊藤 浩也 TEL 059(351)5593
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第1四半期の連結業績（2022年7月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第1四半期	8,517	66.7	710	—	691	—	676	—
2022年6月期第1四半期	5,109	44.1	△1,404	—	△1,405	—	△1,412	—

(注) 包括利益 2023年6月期第1四半期 675百万円 (-%) 2022年6月期第1四半期 △1,409百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第1四半期	52.51	48.75
2022年6月期第1四半期	△109.67	—

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第1四半期	22,467	1,841	8.2
2022年6月期	25,932	1,347	5.2

(参考) 自己資本 2023年6月期第1四半期 1,841百万円 2022年6月期 1,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	—	—	—	—
2023年6月期（予想）	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式（非上場）の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 2023年6月期の連結業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	29.7	1,500	—	1,200	—	900	—	69.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、四半期決算短信（添付資料）8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期1Q	12,886,200株	2022年6月期	12,886,200株
② 期末自己株式数	2023年6月期1Q	9,742株	2022年6月期	9,742株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期1Q	12,876,458株	2022年6月期1Q	12,876,458株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考) 種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりであります。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年6月期	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 27,945.21	円 銭 27,945.21
2023年6月期	0.00				
2023年6月期(予想)		—	—	40,000.00	40,000.00

B種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年6月期	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 0.00	円 銭 27,945.21	円 銭 27,945.21
2023年6月期	0.00				
2023年6月期(予想)		—	—	40,000.00	40,000.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(四半期連結包括利益計算書)	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)における我が国経済は、経済社会活動の本格的な再開への動きが進む一方、国際情勢の悪化、原材料価格の高騰や円安進行などにより依然として先行き不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、2022年10月31日に観光庁が公表している最新の宿泊旅行統計調査(2022年8月第2次速報、2022年9月第1次速報)によりますと、2022年8月の延べ宿泊者数は4,745万人泊(前年同月比+51.6%、2019年同月比△25.0%)、9月は3,914万人泊(前年同月比+71.9%、2019年同月比△19.7%)と、コロナ禍以前には至らないものの、前年を大幅に上回る水準で推移しております。

このような事業状況の下で、当社運営ホテルにおける月次の客室稼働率及び客室単価は、新型コロナウイルス感染症第7波の感染拡大期に際しても大きく落ち込むことなく前年同期の各月を上回る水準で推移し、月次の客室稼働率、客室単価とも国内需要の高まりから着実な上昇傾向にて推移しております。

当社グループにおいて宿泊特化型のビジネスホテルを展開するチョイスホテルズ事業では、2021年7月5日開業のコンフォートイン那覇泊港(沖縄県那覇市)、2021年10月14日開業のコンフォートホテル名古屋金山(愛知県名古屋市)、2022年3月23日開業のコンフォートホテル高松(香川県高松市)の当第1四半期連結累計期間における売上高の貢献がありました。営業面においては、回復の進む国内レジャー需要に対し、各店舗地域の動向や稼働率状況に合わせたレベニューマネジメントの強化、「地域割」など出店地域の需要喚起策に対応したプラン提供、客室単価の回復に繋がる販促強化を図った結果、当事業の売上高は前年同期比74.0%増の6,872百万円となり、客室稼働率は前年同期比17.9ポイント増の82.4%、客室単価は前年同期比30.5%増の7,525円となりました。

地域特性に合わせて宴会場等を併設したシティホテルを中心に展開するグリーンズホテルズ事業においては、2021年7月30日開業のhotel around TAKAYAMA(岐阜県高山市)の当第1四半期連結累計期間における売上高の貢献があった一方、中長期的な観点から事業環境を見極めホテルエコノ金沢片町など5店舗を閉店いたしました。営業面においては、堅調な設備工事やメンテナンス等のビジネス需要の取り込み、「地域割」など出店地域の需要喚起策に対応したプラン提供、各店舗地域の顧客動向、需要の状況に合わせた販促強化を図った結果、売上高は前年同期比43.8%増の1,600百万円となり、客室稼働率は前年同期比17.0ポイント増の75.1%、客室単価は前年同期比20.6%増の6,094円となりました。

なお、当社グループ全体の客室稼働率は前年同期比17.8ポイント増の80.9%、客室単価は前年同期比29.0%増の7,238円、ホテル軒数は100店舗、客室数はチョイスホテルズ事業11,505室、グリーンズホテルズ事業3,171室の合計14,676室となっております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高8,517百万円(前年同期比66.7%増)、営業利益710百万円(前年同期は営業損失1,404百万円)、経常利益691百万円(前年同期は経常損失1,405百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は676百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,412百万円)となりました。

(注)文中記載の客室稼働率ならびに客室単価は、当第1四半期連結累計期間における数値となります。月別の数値に関しましては当社ホームページに掲載しております。

株式会社グリーンズ <https://www.kk-greens.jp/>

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産につきましては22,467百万円となり、前連結会計年度末25,932百万円に比べ、3,465百万円減少いたしました。

うち流動資産は、9,802百万円(前連結会計年度末13,159百万円)と、3,356百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産は、12,664百万円(同12,772百万円)と、108百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産の減価償却によるものであります。

負債につきましては、20,626百万円(同24,585百万円)と、3,959百万円減少いたしました。

うち流動負債は12,853百万円(同16,583百万円)と、3,729百万円減少いたしました。これは主に短期借入金の減少によるものであります。

固定負債は7,772百万円(同8,002百万円)と、229百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

純資産につきましては1,841百万円(同1,347百万円)と、494百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。この結果、自己資本比率は8.2%(前連結会計年度末は5.2%)となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の予想につきましては、前回発表の通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,015,145	6,263,430
売掛金	1,981,839	2,323,841
原材料及び貯蔵品	102,008	114,283
前払費用	971,809	1,036,380
その他	90,812	66,959
貸倒引当金	△1,680	△1,920
流動資産合計	13,159,936	9,802,975
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,058,180	2,019,017
工具、器具及び備品(純額)	442,212	410,511
土地	1,815,257	1,815,257
リース資産(純額)	197,987	181,324
建設仮勘定	2,122,834	2,122,834
有形固定資産合計	6,636,473	6,548,945
無形固定資産	140,698	125,872
投資その他の資産		
投資有価証券	59,795	60,256
長期貸付金	18,681	16,411
差入保証金	5,784,034	5,788,130
その他	174,082	163,560
貸倒引当金	△41,000	△39,000
投資その他の資産合計	5,995,594	5,989,358
固定資産合計	12,772,766	12,664,176
資産合計	25,932,702	22,467,151

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	949,587	1,062,371
短期借入金	9,600,000	5,600,000
1年内返済予定の長期借入金	3,780,887	3,783,483
未払金	866,836	873,573
未払費用	579,015	589,191
未払法人税等	64,769	15,871
未払消費税等	382,263	260,735
賞与引当金	—	161,180
その他	359,971	507,125
流動負債合計	16,583,331	12,853,532
固定負債		
長期借入金	7,158,337	6,972,834
資産除去債務	563,783	543,909
その他	280,183	255,781
固定負債合計	8,002,305	7,772,524
負債合計	24,585,636	20,626,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,433,240	3,251,596
利益剰余金	△2,170,244	△1,494,133
自己株式	△8,917	△8,917
株主資本合計	1,354,078	1,848,545
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7,012	△7,450
その他の包括利益累計額合計	△7,012	△7,450
純資産合計	1,347,065	1,841,094
負債純資産合計	25,932,702	22,467,151

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
売上高	5,109,106	8,517,666
売上原価	5,422,699	6,452,774
売上総利益又は売上総損失(△)	△313,593	2,064,892
販売費及び一般管理費	1,090,932	1,354,327
営業利益又は営業損失(△)	△1,404,526	710,564
営業外収益		
受取利息	153	136
違約金収入	11,558	6,065
助成金収入	41,065	10,382
その他	8,532	4,893
営業外収益合計	61,309	21,478
営業外費用		
支払利息	25,026	24,329
支払手数料	17,180	—
支払補償費	12,176	15,042
その他	7,540	688
営業外費用合計	61,923	40,060
経常利益又は経常損失(△)	△1,405,140	691,982
特別利益		
固定資産売却益	8,897	—
特別利益合計	8,897	—
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,396,242	691,982
法人税等	15,871	15,871
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,412,113	676,110
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,412,113	676,110

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,412,113	676,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,878	△438
その他の包括利益合計	2,878	△438
四半期包括利益	△1,409,234	675,672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,409,234	675,672

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、2023年6月期第1四半期連結累計期間において売上高8,517,666千円、営業利益710,564千円、経常利益691,982千円、親会社株主に帰属する四半期純利益676,110千円を計上しました。

一方、シンジケートローン8,600,000千円の返済期日が2023年3月に到来する事から、借入金の返済等の資金繰りに懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在していません。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下のとおり対応を進めてまいります。

事業の進捗について

第1四半期連結累計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)における我が国経済は、経済社会活動の本格的な再開への動きが進む一方、国際情勢の悪化、原材料価格の高騰や円安進行などにより依然として先行き不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、2022年10月31日に観光庁が公表している最新の宿泊旅行統計調査(2022年8月第2次速報、2022年9月第1次速報)によりますと、2022年8月の延べ宿泊者数は4,745万人泊(前年同月比+51.6%、2019年同月比△25.0%)、9月は3,914万人泊(前年同月比+71.9%、2019年同月比△19.7%)と、コロナ禍以前には至らないものの、前年を大幅に上回る水準で推移しております。

このような事業状況の下で、当社運営ホテルにおける月次の客室稼働率及び客室単価は、新型コロナウイルス感染症第7波の感染拡大期に際しても大きく落ち込むことなく前年同期の各月を上回る水準で推移し、月次の客室稼働率、客室単価とも国内需要の高まりから着実な上昇傾向にて推移しております。

今後は、水際措置の更なる緩和や経済社会活動の本格的な再開状況に合わせた各種プランの提供、適切なレベニューマネジメントにより、さらなる収益拡大を進めてまいります。

一方、金融機関とは良好な関係を維持できており、継続的な支援が受けられるものと考えておりますが、金融機関と締結した借入契約の一部については、契約上の返済期限が短期となっていることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じた金額に、繰延税金資産の回収可能性を考慮しております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した（追加情報）（新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）の仮定に重要な変更はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当社グループは、ホテル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の実績

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注実績

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績は次のとおりであります。なお、当社グループはホテル事業の単一セグメントであるため、事業部門別に記載しております。

事業部門の名称	当第1四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	前年同期比 (%)
チョイスホテルズ事業 (千円)	6,872,589	174.0
グリーンズホテルズ事業 (千円)	1,600,082	143.8
その他の事業 (千円)	44,995	99.3
合 計 (千円)	8,517,666	166.7

- (注) 1. 事業部門間の取引については相殺消去しております。
2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、当該割合が100分の10以上の相手先がないため、記載を省略しております。